

## 読書感想文に関するリサーチ結果報告 テキストマイニングで読書感想文は書けるのか

当研究所（RIHS）は、「テキストマイニングによる読書感想文の新たな可能性—読書感想文の省力化を目指して—」と題するリサーチを実施いたしました。

読書感想文は、夏休みの宿題の定番であり、多くの児童・生徒を苦しめてきたものの代表格です。そして、思春期の夏休みという最も変態性の発達が期待されるこの時期にそのような課題に時間を割かねばならないことは、変態学の展開にとって大きな障害となっています。

このような観点から、当研究所では、近年注目を集めているテキストマイニングの手法を用いて読書感想文の遂行を省力化する方法を検討いたしましたので、そのリサーチの結果をご報告させていただきます。

【調査に関するお問い合わせ】 ご連絡の際は「※」は「@」に変えてください  
RIHSホームページ：<http://institute-of-hentai-studies.org>  
Twitterアカウント：※hentai\_studies  
連絡先：institute.of.hentai.studies※gmail.com

## 調査結果要旨

### リサーチの目的

児童・生徒が利用可能なウェブ上のテキストマイニングサービス（AIテキストマイニング by ユーザーローカル）のマイニング結果のみを見て、読書感想文が執筆できるかを検証すること。

### 対象としたテキスト

有島武郎『一房の葡萄』

### 選定の基準

あまり有名なテキストにすると、採点する教師が**同テキストをすでに読んでおり**矛盾が発覚する恐れがあります。しかし他方で、あまりにも無名な著者による書籍にすると、気になった**教師が調べてしまい**同じく矛盾が発覚する恐れがあります。このような観点から、相当に有名な有島武郎のそこまで良く知られているわけではない上記の掌編を選定いたしました。

### 手法

マイニングの結果（単語の頻出度や共起頻度のリスト等。具体的な内容は別紙【報告書】をご覧ください）を、テキストを読んだことのない2人の実験参加者に呈示し、読書感想文を執筆してもらいました（実際に執筆された読書感想文は別紙【付録】をご覧ください）。

読書感想文の内容は、青少年読書感想文全国コンクールの高等学校の部に準拠し、2,000文字を上限としました。

## 調査結果概要

### ○どちらの執筆者もそれなりの文章を書くことができた

両執筆者間には、単語の出現頻度の高かった「僕」を軸にストーリーラインを想像し、それに「這入る」「恥かしい」「気味が悪い」などの特徴的な語を加味して執筆しているという共通点がありました。

「僕」が主人公であることは実際の内容と一致して追えり、そのような意味において**テキストの本質部分はテキストマイニングの結果のみで捉えられる**ことが明らかとなりました。

### ○他方で、執筆者の個性も表現されていた

他方で、同じく出現頻度の高かった「先生」を一方の執筆者は重要な登場人物と見なし、他方の執筆者はそれほど重要視はしていませんでした。

また、一人の執筆者はあらかじめ持っていた知識を利用し有島武郎の背景に触れることで、文章量を増やしていました。

このように、全く同じマイニングの結果を見せられたとしても、それをもとに執筆される内容は異なること、つまり、**内容の重複によって実際には読んでいないことが発覚する恐れは低い**ことが確かめられました。

## 結論

テキストマイニングの結果だけで**読書感想文を執筆することは可能**であり、同時に**発覚の恐れも高くはない**ことが実践の結果明らかとなりました。

## 今後の課題

### ・ 実際の教師による評価

本リサーチでは、2人の執筆者によって執筆された感想文を片方の執筆者が読むことで考察を行いました。教師が採点を行う際に、実際に「読んでいる」と思ってもらえるかどうか、あるいはどのような評価が付けられるかは未検証です。今後は実際の教師に協力を求め、これらの点を検証する必要があると思われます。

なお、本リサーチでとられた手法を用いて実際に読書感想文を提出したことによって生じたいかなる損害（教師に呼び出される、怒られる、再提出を命じられる等）につきましても当研究所は責任を負いかねます。あらかじめご承知いただければ幸いです。

今後とも、RIHSでは継続して調査を行いますので、当研究所の活動や理念にご賛同いただける方、ご関心がある方は、ホームページのブックマークやTwitterへのフォローをお願いいたします。

RIHSホームページ：<http://institute-of-hentai-studies.org>

Twitterアカウント：※hentai\_studies（※は@に変えてください）